

あきらめていた「家族旅行」を、もう一度。

Good Time

人生で一番輝くとき“グッドタイム”



フリーアナウンサー(元毎日放送アナウンサー)
野村啓司のグッドタイム

春山 満語録

第一回『若者よ、だまされるな!』 / 失くしたものを数えるな!

【編集後記】ピリオドを打たない生き方が、心を輝かせる。

01
2016.July

A portrait of Kenji Nomura, a middle-aged man with dark hair and glasses, smiling. He is wearing a light blue blazer over a blue and white striped shirt. He is sitting on a light-colored sofa. The background is a plain, light-colored wall.

野村 啓司の グッドタイム

フリーアナウンサー(元毎日放送アナウンサー)野村 啓司さんの輝き続ける秘密をお伺いしました。

「僕はアナウンサーになる！」
中学2年生から青春を捧げて。

春山 哲朗(以下、春山) これまでの45年間、野村さんにとつてのアナウンサー人生はどんな道でしたか？

野村 アナウンサーになりたいと思つたのは小学生の時。中学2年生で「僕はアナウンサーになる！」と自分の中で決めたんです。それ以来、アナウンサーになるための積み重ねの毎日でした。具体的にやっていたことはアナウンサーの口真似をしたり、動いているものを見て実況のようなことをしてみたり。新聞の記事を見て、子どもなりに「アナウンサーだったら、こんな風に紹介するんじゃないかな」とイメージトレーニングもしましたね。

高校も大学も放送部に入部。寄り道をすることなく、夢に突き進みました。大袈裟ですが、アナウンサーになるために青春時代を捧げたわけです。振り返ってみると夢のために多くの時間を費やし、努力を続けた自分を褒めてあげたいという思いはありますね。

家族との楽しい時間はいつも歌謡曲とともに。
だからこそ今の僕がある。

春山 野村さんといえば「歌謡曲」というイメージがあります。

野村 それは「乾杯！トークそんぐ」というテレビの音楽番組を12年間担当させていただいていたからでしょうね。12年でおよそ550回。著名な大御所から新人まで、ほとんどの歌手の方にお会いできたことは僕の宝です。

僕の育った家には蓄音機があつたので親父と兄貴と一緒に流行歌を聴いていました。そんな家族の時間が僕は楽しかったんでしょうね。僕の体には歌謡曲が染みついていましたから、すぐに受け入れられたんだと思います。

いま、毎日放送ラジオでもラジオ大阪でも歌謡曲の番組を担当しているのは、密かな努力の賜物だと思っています。というのも「野村は歌謡曲が好きだ。歌謡曲に詳しい」という印象を皆さんに持っていただけに、さりげなくアピールして印象づけを続けてきたから

です。僕らの仕事で自己PRはものすごく大切なですよ。さりげなく、嫌味なくね。その甲斐あつて歌謡曲に関係したお仕事を続けさせていただけっていると自負しています。アナウンサーという仕事が続けられる限り、歌謡曲の番組をライフワークとして全うしたいですね。

いい歌を次世代へ伝えていく
端くれでありたい。

野村 先日、五木ひろしさんがおっしゃっていましたが、昔からの流行歌・歌謡曲にはいいものがたくさんある。これを廃れさせないために自分が歌つて世に残し継承

していくんだと。僕はこの言葉に感動しています。放送の仕事をしている人間のひとりとして僕らもいい歌を次の世代へ伝えていければ、と。実際、番組に20代・30代の方から「父がよく聴いていました」「久しぶりに聴きたくなりました」とリクエストがくると「お！歌謡曲の継承に俺でも、ほんの端くれでも役に立っているんじゃないかな」と嬉しくなるんですよ。歌謡曲は日本の文化ですからね。

歌謡曲の魅力を伝え、

次世代へ継承していくこと。

それが僕のライフワークだと思っています。



仕事にも、趣味にもピリオドを打たない。 それが僕のグッドタイムを作りだしている。



若さはなくても気力はまだある。
そう気づかせてくれたのが
カメラでした。

春山 歌謡曲と、もうひとつ「野村さん
といえばカメラ」という印象を強くもっ
ています。

野村 カメラを始めて僕はたかだか10
年ですが、この趣味を後押ししてもらっ
たのが春山満さんの言葉だったと思っ
ます。春山さんの「失くしたものを数え
るな！残されたものを120%活かせ
ば絶対に生き残れる！」という言葉が胸
に響きました。

僕は65歳を過ぎたら生き急いでいいと
思うんです。いい意味で。そのメリット
は何かって言うと、生き急ぐと、いま何
をやっておかなければならないか、いま
何がやりたいかが具体的に見えてくる
んです。

僕はいま67歳ですから、いろいろなも
のを失くしていつにいつという実感が
あります。まず、当然若さは失くなりま
すよね。若さが失くなるとそれなりに体
力も落ちてくる。そうすると「ああ、もう
俺は若くない。元気もない。気力もない

なあ」と思ってしまう。それが違うんだ
ということにカメラが教えてくれまし
た。

例えば「お！今日休んで天気がいい！
じゃあ淡路島に写真を撮りに行こう！」
となるわけです。それで、若さは失く
なったとしても気力や元気はあるじゃ
ないか、と気づけた。いま、なんとなく思
うのはもう10年早くカメラを始めていた
らもっと機動力があっただろうなって。
だから、できれば40代・50代のうちに深い
趣味を見つけておくといいと思います。

「最高の富士山を撮りたい」
この思いが僕を動かしています。

春山 いま、具体的に「こういう写真が
撮りたい」というテーマはありますか。

野村 富士山ですね。1か月休みがとれ
たら富士山のおもとを一周して撮影し
たい。いまさら富士山？と思われるかも
しれませんが、やっぱり富士山なんで
す。でも、ものすごく天候に左右される。
富士山と太陽の位置関係も大事だし、
曇っていたら富士山は見えないわけ
ですから天候とタイミングが非常に大切。
富士山の頂上にちようどお月様がか
かっていたり、太陽がかかっていたりす
る写真を撮りたかったら、ちゃんと下調
べをして具体的な日にちと場所を割り
ださないと撮れない。

野村 啓司

フリーアナウンサー(元毎日放送アナウンサー)

●1948年京都市生まれ。1971年毎日放送にアナウンサーとして入社。
『すてきな出逢い いい朝8時』『クイズ!!ひらめきパスワード』など、全国ネットのテレビ番組を担当し、毎日放送の看板アナウンサーとして全国区の知名度を得る。
この他、『ガムグアムリクエスト』『なにはなくとも野村啓司です』『野村啓司の私の歌は茜色』などラジオ番組も多数担当。
演歌や歌謡曲に対する造詣が深く、1989年から12年間担当したテレビ番組『乾杯!トークそんぐ』では大勢の歌手と共演し、聴いた生歌は5000曲にのぼる。
2001年にアナウンサー室長になってからしばらくはスタジオから遠ざかっていたが、2005年に現場復帰。夕方のラジオ番組『ノムラでノムラだ』を10年間担当する。
趣味はカメラ。多くの風景写真を撮影し、作品のいくつかは、フォトコンテストで賞を受賞している。



野村 啓司氏の写真作品

1 京都府美山町・かやぶきの里 2 北海道釧路鶴居村・鶴乱舞 3 神奈川県江ノ島 4 富山県雨晴海岸・冠雪立山連峰

不安から解放されるコツ。それは、人生を積極的に楽しむこと。

そして下調べはあくまで準備。実際そこに行かないと写真は撮れないわけですから。さつき、機動力って言いましてけど、写真にはまさにそれが重要。自分の体を外に出すきつかけを作ってくれるから写真をやっていてよかったです。います。

子どもに迷惑をかけない。それが

「老いの準備」のテーマです。

春山 野村さんは現在67歳でいらっやいます。将来への不安はありませんか。

野村 ありますよ。歳を重ねることに不安になっていきますよね。四六時中、そ

んなことを考えているわけではありませんが、ふと「この健康をいつまで維持できるんだろう」と考えてしまうことも。「いや、俺はずっと元気でありたいし、そうあるだろう」と思っただけでも、それはあくまで希望的観測。

まあ、これは誰しもが考えること。いまは幸いにも元気なのでそれほど将来のことを深刻には考えていません。とはいえ、漠然とというほど中途半端でもなく、具体的にというほど細やかではないにせよ、その中間ぐらいの不安は常に抱えていますね。

あと「老いたとき、身の振り方をどうするのか」というのも大きなテーマ。子どもには迷惑をかけたくないから、しつ

かり準備をしておかなければならないなと思っっています。

**仕事やカメラのおかげで
将来への不安は
忘れていられます。**

春山 野村さんにはお仕事やカメラにも目標があつて、それがすごく心を輝かせているという気がします。

野村 目標と向きあっていると余計なことを考える暇がありません。それがいいと思います。自分の将来や健康、年老いていくことに対する不安について考える時間がどんどん減っていく。積極的に人生を楽しめば不安から解放される

ということに気づきました。

「人生に夢があるのではなく、夢が人生をつくるのです」僕の好きな言葉です。

僕はまだ、仕事においてもピリオドを打ちたいとは思っていません。できる限り、しゃべれる限りいまの仕事が続けたいと思っています。これが僕にとつてのグッドタイムなのかもしれません。

編集
後記



ピリオドを打たない生き方が、
心を輝かせる。

野村啓司さんとは毎日放送ラジオの「ノムラでノムラだ♪EXトラ!」でパーソナリティーを務められていた時に知り合い、約6年となる。今回取材をお願いしたのはお付き合いの長さからではない。70歳を前に、野村さんがこれからどこに向かって生きていくのかを僕なりに取材した。

野村さんといえば毎日放送のアナウンサーとして大活躍された。現在、フリーアナウンサーに転じられこれまで同様仕事に取り組まれているが、老いの現実にも直面されている。一般的にはリタイアした後、趣味に没頭したり、これまで行けなかった場所へ夫婦で旅行したりと悠々自適に暮らされている方が多い。しかし、野村さんは現在も毎日放送ラジオとラジオ大阪で3つのレギュラー番組のパーソナリティーを務められている。そのうち2つは音楽番組でテーマは「歌謡曲」。「僕はラッキーです。この年になっても好きなラジオで大好きな歌謡曲をテーマに番組ができるなん

て」と満足気な笑顔で語られた。ただこへは単純な「ラッキー」だけで辿り着かれたのではない。45年間の努力があったからこそで、尚且つ「野村啓司といえば歌謡曲」とことあるごとにイメージづけをされてきたといわれる。そしていまは「いい歌を次世代へ伝えていく端くれでありたい」と志をもち、役割を果たされている。

一方で趣味のカメラにも力を注がれている。僕はカメラのことは全くの素人だが本誌5ページに掲載した「野村さんが撮影された」写真を見れば一目瞭然。仕事の話をしている時とは打って変わってカメラの話では表情が変わる。一言でいうと少年の表情だ。「いつか1カ月ほどかけて富士山を撮影しに行きたい」と力が入る。アナウンサーという仕事もライフワークの1つであるが、カメラという趣味への探究心にも衰えを感じることがなかった。

今回の取材を通して、歳を重ねても役割があることは心を輝かせる大きな要素であると感じた。皆平等に迎える老い。そして歳を重ねることに漠然と健康への不安が増していく。「自らピリオドを打たない」「限られた環境であっても感謝を忘れずしっかりと役割を担う」この考え方をもちたれているからこそ漠然とした不安を覚えながらもイキイキと輝かれている。

野村さんの心の輝きは、ずっと先まで照らしていた。



春山 哲朗

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル 代表取締役

●1985年、春山 満の長男として生まれる。高校を卒業後ハワイの大学へ留学。その後、アメリカネバダ州のUniversity of Nevada, Las Vegasへ編入。2007年、春山 満からビジネスを学ぶため、(株)ハンディネットワーク インターナショナルへ入社。2012年、同社 取締役役に就任。2014年、代表取締役役に就任。MBSラジオ「失くしたものを数えるな!大丈夫や〜!!」のパーソナリティを務める。2015年、新事業「グッドタイム トラベル」のサービスを開始。

著書に「脳から血へでるほど考えろ!!」(週刊住宅新聞社)、「若者よ、だまされるな!」(週刊住宅新聞社)がある。



第一回

『若者よ、だまされるな!』

一番弟子とドラ息子¹の運命も変えた。
カリスマ車いす社長、魂のメッセージ。

失くしたものを数えるな!

残っている機能を120%活かせば絶対に生き残れる!

難病になって、いろんなものを失くしながら、失くす端からいろんなものを見つけてきた僕の人生を見て、「逆転の発想で成功した車いすのビジネスマン」と世界は賞する。ただね、僕は逆転の発想なんて、一度もしたことがない。一番大事にしてきたことは、失くしたものは数えないということ。失くしたものを数えると、無いものねだりをするんだな。ネガティブになるんだな。今の日本と一緒。こんなに豊かで、こんなに平和で、こんなにものに溢れているのに、バブルがはじけなければ、失われた10年さえなければ、みんな昔を懐かしがって、幻想にとらわれて、こうしてパナソニックもソ

ニーもトヨタもみんな沈没していった。失くしたものを数えたらダメなんだよ。残っているものがあるだろう。それを磨けばいいんだよ。僕はこうやって生き残ってきた。ナンバー1とオンリー1を見つけて、それをさらに輝かせてきた。いわば、ビジネスの王道。みんな足下をよく見よう、こんなお宝が、まだゴロゴロあるぞ。

(週刊住宅新聞社刊「若者よ、だまされるな!」より抜粋)



『若者よ、だまされるな!』
発行/週刊住宅新聞社
2012年初版発行
定価/本体1500円+税



春山 満

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル 創業者

●24歳より進行性筋ジストロフィーを発症し、30代後半には首から下の運動機能を全廃。1988年、全国初の福祉のデパート「ハンディ・コープ」を開業。1991年、ハンディネットワーク インターナショナル(HNI)を設立、介護・医療のオリジナル商品を開発・販売する。幅広いネットワークと、体験を通じた独自の視点と着眼で、大手医療法人の総合経営企画・コンサルティング、企業や自治体のプロジェクトに数多く参画。2003年、米国ビジネスウィーク誌にて『アジアの星』25人に選出。2005年、オリックス不動産(株)と共同出資し、高齢者住宅運営会社オリックス・リビング(株)を設立。2007年、公益財団法人国家基本問題研究所評議員就任。2008年、ハワイシニアライフ協会 名誉理事就任。自身がパーソナリティを務めたMBSラジオ「若者よ、だまされるな!」は日本民間放送連盟賞 近畿地区 ラジオ教養部門 最優秀賞を受賞。2014年、進行性筋ジストロフィーによる呼吸不全のため60歳で永眠。

主な著書に「僕にできないこと。僕にしかできないこと。」(幻冬舎)、「若者よ、だまされるな!」(週刊住宅新聞社)、「僕はそれでも生き抜いた」(仁パブリッシング)など。

グッドタイム トラベルがおすすめる「厳選ホテル・旅館」



星と海と空が出逢う場所 ホテルニューアワジ「ヴィラ楽園」

ホテルニューアワジ (兵庫県)

自然がつくりだす雄大で幻想的なロケーションの一番近く、季節や時とともに彩りを変える、海と空につつまれて。

全室に温泉露天風呂が備わるスイート仕様のゲストルーム。和室を中心に光の差し込むリビングダイニングや落ち着いたベッドルームを配し、眺望自慢の露天風呂付テラスを備えます。海や空との一体感を感じ開放感のある客室。団欒のスペースと最高級のくつろぎ感。我が家のように“過ごす”ことにこだわりました。2010年にグランドオープンしたヴィラ楽園は開業から5周年を経て2015年12月、2つの新タイプが6室オープンし全27室。穏やかな島時間が流れるこだわりの空間の中、贅沢な休日をお愉しみください。



西村屋ホテル招月庭 (兵庫県)

西村屋150年の伝統に、新しい時を重ねて。自然に包まれた至福のリラクゼーション。



創業以来150余年。老舗ならではの“おもてなし”を現代建築や意匠に取り入れた新時代のホテルです。森林に包まれた5万坪の大庭園ののびやかな美しさと野に遊ぶ趣きの出で湯の風情。旅心を満たす細やかなおもてなしの心でお迎えいたします。

森の風 鶯宿 (岩手県)

岩手県雫石、秀峰岩手山を望む、北東北の観光拠点。ガーデンパークも併設。



森の風 鶯宿はフラワー＆ガーデン森の風のオフィシャルホテルです。源泉かけ流し露天風呂付き客室を備え、和食・囲炉裏・オープンキッチンバイキングなど多彩な食事が自慢。村祭りを思わせる、おまつり広場では童心にかえるひとときをお楽しみください。

「Good Time」定期お届け便のご案内

「Good Time」は7月、12月の年2回発行いたします。是非、定期お届け便をご利用ください。店舗や施設の待合スペースでの設置も可能です。ご希望の方はご相談ください。

■お申込み方法

TEL 072-725-3388

FAX 072-725-3088

メール goodtimetravel@hni.co.jp

定期
お届け便
無料

お届け先のお名前・ご住所・お電話番号をお知らせください。
※お客様の個人情報は、厳重に保管・管理しております。お客様の承諾を得た場合を除き目的以外での利用はいたしません。

「グッドタイムトラベル」とは…

「グッドタイムトラベル」はお客様のご要望にお応えする完全オリジナル企画旅行です。お客様やご家族だけでなくかかりつけのドクターやケアマネージャーの意見も反映させ、安心してご家族皆様に楽しんでいただける旅行をプランニングします。さらに、ケアスタッフ(トラベルケアアテンダント)を同行させていただき、ご家族の負担を取り除くとともに、介護を受ける方もご家族に気兼ねなく楽しんでいただける旅行を実現します。

トラベルケア アテンダント Travel Care Attendant (TCA)

介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)以上の資格を持ち、「グッドタイムトラベル」の教育プログラムを修了した介護のプロフェッショナルです。